



一文字笠



市女笠



ヘルメット笠



花笠



### 菅笠の販売と笠商人

福岡町で生産された菅笠は、江戸中期までは仲買人が金沢へ運び販売されてきました。江戸後期には福岡町に笠問屋が出来、直接販売する様になり、九州・関東・東北地方にまで、得意先を確保するようになってきました。現在も全国の90%以上を生産しています。



### 笠骨作りと笠縫い

笠の形に種類や寸法の大小があり、笠骨を作るのは、骨刺しという専門職人がいます。昔は各家庭での男の仕事でした。一方、笠縫いは、女の仕事とされ、福岡町では嫁をもらうにも上手に縫えることが条件でした。



# 越中福岡の菅笠立

重要無形民俗文化財指定 四百年の伝統の技 今も伝わる製作技術

### 菅笠づくりの伝承

技法は、京都の禅僧から、あるいは伊勢国の大野源作が、福岡町に移住し教えたとも伝わっています。



### スゲの栽培

スゲは、カヤツリグサ科のカサスゲで雪解けに新芽が出て、七月には背丈以上に伸びます。七月末に刈り取り、四・五日天日干しをし、保管しておきます。



三度笠



赤広笠



富士笠



胴深笠



お正月飾り笠

# スゲの四季

植え付け

秋

菅笠作り最盛期

冬

間引き

春

刈り取り

夏

九月の下旬、根元が大きく新根の発生している良苗を流水に浸して保管します。十月中には余分な葉先を切り落とし三五センチ丈に揃えた苗を、角度四十五度斜めにして田に植え付け、積雪期を迎えます。



菅笠作りにおいて、一番重要なポイントは、湿気。スゲは、乾くと折れたり割れたりします。作業前にはスゲを二〜三時間水にひたしておきますが、作業中もぬれたタオルを当てたり、霧吹きをしたりします。冬は、適度な湿気があるので、スゲが柔らかくなり、作業がしやすいです。盛期といえます。



北陸の春、雪解けと同時に一株から多くの新芽が伸長します。追肥を施すと共に、良芽を四本くらい残して不良苗を間引きする作業を三〜五回行います。そうすると葉身幅が広く、草丈の長いものに育ちます。



七月末の暑い盛り、スゲの刈り取りが行われます。刈り取りは、晴天の早朝又は夕方、草刈鎌を用い、一株ずつ水平に刈り取ります。

そして、刈り取られたスゲは、四〜五日かけて裏表交互に天日干しし、乾燥脱色をはかります。扇状に並べられたスゲ干しは、福岡でしか見られない美しい景観です。小矢部川付近のあちらこちらで見ることが出来ます。



4月中旬	福岡さくらまつり
5月中旬	竹の子まつり
8月第1日曜日	リバーサイドフェスタ
9月23・24日	福岡町つくりもんまつり
11月3日	ふくおか産業フェスティバル



菅笠関係先

展示販売

(財)高岡地域地場産業センター ☎0766-25-8283  
(高岡北インターより車で10分、JR福岡駅より車で25分)

展示のみ

菅笠の館 ☎0766-64-2272 (JR福岡駅より徒歩で10分)  
高岡市福岡歴史民俗資料館 ☎0766-64-5602 (JR福岡駅より車で10分)

販売

お待ち堂 ☎0766-64-6001 (JR福岡駅構内)  
さんちよんびん蔵 ☎0766-64-1661 (JR福岡駅より徒歩で7分)  
高岡市まちづくり福岡工房 ☎0766-64-0020 (JR福岡駅より徒歩で7分)

菅笠問屋

岸野商店 ☎0766-64-2696 (JR福岡駅より徒歩で10分)  
寺島商店 ☎0766-64-2272 (JR福岡駅より徒歩で10分)  
山岸商店 ☎0766-64-3153 (JR福岡駅より車で5分)

お問い合わせ

越中福岡の菅笠製作技術保存会事務局  
(高岡市福岡総合行政センター地域振興課内)

〒939-0192 富山県高岡市福岡町大滝12

TEL.0766-64-1423  
FAX.0766-64-5344